

仙台教区 復興支援活動ニュースレター

4 → 6 ・ 4 5 通信

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗
 〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
 カトリック仙台司教区事務局
 TEL 022-222-7371 FAX 022-222-7378
 義援金振替口座：02260-9-2305
 名義：カトリック仙台司教区本部事務局

偶然、東仙台教会の方々の活動紹介で、本紙第26号ができあがりました。最初の記事は、塩釜市の湾内に浮かぶ浦戸諸島の桂島での「お茶っこ・傾聴活動」。今回、この活動が最終会を迎え、惜しまれつつお別れをした様子が描かれています。次の記事は、石巻ベースが行っている東松島ひびき仮設住宅での「和みのお茶会」のご紹介。これは、東仙台教会の一人の茶道の先生によるお茶っこ傾聴活動です。そして、最後は、地震の被害で大修復工事の末に立ち直った東仙台教会に、鹿児島県奄美大島の大笠利教会の信徒の方々がソテツの葉を送ってくださり、無事、枝の主日を迎えたという喜びと感謝の記事です。

桂島「お茶っこの会」ボランティア活動を終えて

カトリック東仙台教会 京 早苗

塩釜市浦戸諸島桂島の栈橋から通い慣れた坂道を登りきると、目の前に、前浜海水浴場が一望できます。東日本大震災から4年の年月が過ぎ、被災直後はガレキの山と化していた浜辺もだいぶ整理が進み、いまだ所々に松枯れなど津波被害の名残りも見られますが、昨年の夏には海水浴場として再開を果たし、約5,000人もの方が訪れ賑わったそうです。

桂島「お茶っこの会」のボランティア活動は、2011年11月3日に6名で始まりました。2014年からは、時々ハーツホーム「心の港」のメンバーも加わり、最後の活動となった2015年1月31日には13名に増えたメンバーが、それぞれの役割を十二分に発揮しました。

活動場所は、今は廃校となっている浦戸第二小学校校庭に建つ、仮設住宅の集会室をお借りしました。集会室や仮設住民の方、近隣の方の都合、ボランティアの都合により不定期な開催でした。参加者は10名前後ですが、多い時は15名を越える日もありました。

会を重ねるにつれて住民の方々とのつながりも深まりました。船が桂島に着くと、栈橋では、区長さんをはじめ男性の方が迎えに出て荷物を運んでくださいました。集会室前のベンチには、数人の女性の方が腰を掛け、私たちの到着を笑顔で出迎えてくださいました。

活動はいつも、看護師の資格をもち豊富な体験のあるシスターKさんの血圧測定と傾聴から始まります。桂島には医療機関が皆無ということもあって、皆さん、真剣な面持ちで症状を話され、シスターとの会話が終わるとほっとされた様子で、とても大切な時間になりました。

お品書きは、餅つき機持参のつきたてあんこ餅、お好み焼き、おでん、ちらし寿司、かき氷、白玉あんみつなどなど。甘酒は、毎回大好評でした。楽しい作業は、指編みマフラー、作業用手袋を利用したラブリーモップや七夕飾り作り。特に喜ばれたのが、フラワーアレンジメントでした。準備した花材は、あっという間に器に飾られ、自画自賛のアレンジ花を手にも満面の笑みでそれぞれが記念写真に収まりました。歌もよく歌いました。童謡や懐かしのメロディ、フランス民謡など。歌が終わると、互いの歌へ素直な批評で大爆笑。ある時は、病気が回復されて間もない方が、思いを込め情緒豊かに歌われ、おもわず涙するほどの感動を受けました。

松島湾を望みながらのお花見、秋の芋煮会など、屋外での交流会には、通りがかりの郵便配達員、たびたび島にやってくる山形大学の学生ボランティアも飛び入りで参加し、楽しいひとときを過ごしました。

活動が終わると集会室でボランティアたちだけの時間。感謝の祈りをささげ、昼食をとります。そして必ず活動内容の振り返りと感想を伝え合い、ささいなことでも情報交換をすることで、次の活動につなげることを心がけました。

災害公営住宅第1期工事の完成も間近になり、時間の経過に伴い、それぞれの方の置かれる環境も変化してきました。仮設住民の方同士、その近隣の方同士の関わりにも、微妙な変化を感じるられるようになってきました。

こうした中で、ボランティア活動の継続を考えたとき、大いに迷いましたが、活動拠点だった集会室が次期工事のために取り壊されることを知り、活動を終えることにいたしました。

これまでの27回の活動を通して、「カリタスさんはキリスト教と何か関係があるらしい……」ことは伝わったかもしれませんが。これからは桂島特産の牡蠣や海苔の購入を通して後方支援を続けていきたいと考えています。



カトリック東仙台教会「お茶っこの会」

桂島の方々との記念写真

東松島市ひびき仮設住宅で「和みのお茶会」を

カトリック東仙台教会 阿部 正子

東日本大震災から2年が経過していく2013年1月、カトリック東仙台教会のミサ後、オタワ愛徳修道女会のSr.築沢に「阿部さん毎日忙しいでしょうが、ボランティアで月1回火曜日に仮設住宅の皆さんへ、おいしいお茶を差し上げていただけないかしら？」と声を掛けられ、「喜んでお受けします。」と応えました。

早速、宮城野社会福祉協議会を訪ね、規則となっている「天災型ボランティア保険」の加入の手続きをとり、翌月からカリタス石巻ベースが東松島市ひびき仮設住宅で行っている「カリタスお茶会」に参加することになりました。

2月5日火曜日の早朝、シスターの運転する車で石巻ベースを訪れ、Sr.杉田とのボランティア活動の心得としてのミーティングを終え、目的地の仮設住宅へ向かいました。

途中、東松島市の野蒜海岸を含む津波被災地の散々な状況を目の当たりにし、想像もつかないほどの辛く悲しい体験をお持ちの方々を思うと、初めてお会いすることに緊張が増していきました。

集会所では、たくさんの方が笑顔でお迎えくださいました。机を囲んで温かい雰囲気の中で、心を込めてお煎茶を淹れました。「おいしい。初めての味です！」と喜んで下さったので、織田流煎茶道を名乗り、それからはお茶談義となって一日楽しく過ごさせていただきました。



ひびき仮設の方へ説明する阿部正子さん(左)

以来、2年が過ぎ、現在はJRを利用して仮設を訪問していますが、茶道具運搬と駅から仮設までは石巻ベースの方が送迎して下さいますので助かります。今では煎茶の他に、玉露や抹茶もお楽しみいただいておりますが、茶席用お茶菓子は自分で準備しますので、時折、全国各地の友人たちや修道会が九州・京都・静岡等のお茶やお菓子を支援くださり、有難く思います。また石巻ベースの方々のサポートにより、お茶席がスムーズに運ばれ、皆さんとの和やかな時が過ぎていきます。

2014年秋頃から抹茶のお点前（裏千家茶道）を見たいとの要望があり、毛氈を敷いて薄茶の点前もしています。集会所を訪れてくださる全ての方が、お抹茶を召し上がっていただけますので、机上でも、緊張感を楽しみながら正座あり腰掛ありでのお茶席でもご自由です。お正客役は吉田さん（男性）が毎回快く務めてくださり、皆さんからは「茶道部長」と呼ばれています。

すっかり抹茶が定着し、真剣にお客様役を修業？される女性方があり、お茶談義を楽しむ方、中にはお茶碗・茶杓・棗・茶筌など揃えて、友人を招き「抹茶でお茶飲み会」をするとの報告もあり、嬉しい限りです。

仮設住宅でのボランティアの目的は、「寄り添い」です。他県からのボランティアさん方が何度も参加して下さっています。また地元のサポートセンターの職員方もお越しになり、復興への現状をお聞きすることもあります。災害公営住宅へ越して行かれた方の新しい環境での孤独の課題や、宅地造成と自宅建築にはまだ数年はかかるであろうとのお話に、仮設の皆さんが希望を持って過ごされますようにと願うばかりです。

ところが、いつの間にか、今では私の方が寄り添っていただいているような状態であることに、気付かされています。皆さんの優しさや思いやりに包まれて、いつもゆったりとした気持ちにさせていただき感謝です。温かい雰囲気の中で、和みのお茶会をこれからも皆さんと共に楽しみながら続けてまいりたいと思います。

大笠利教会の信徒の皆さま、ありがとうございました！

受難の主日は、枝の主日とも呼ばれています。それは、エルサレムの人々が、イエスをお迎えするために、手にシュロの葉や、オリーブの枝を持ち、イエスを歓迎したことを記念する式があるからです。

通常、日本のカトリック教会は、ソテツの葉を用いています。教会の典礼係は、この日のために、早くからお花屋さんに注文し、この準備は結構大変です。ソテツは、1本いくらするものかわかりませんが、仙台教区は日本の東北地方に位置している教区のため、ソテツがはえているとすれば、温室のようなところしかありません。それで、1本の値段は結構なものだという話を聞いたことがあります。そのため、ソテツの葉を1本完全な形のを、手に持つのは、司祭や侍者たち数名のみで、あとの参加者は、1本のソテツを3本くらいに切ったものを、手に持つのです。

昨年の「枝の主日」の約1ヵ月前、鹿児島県・奄美大島の大笠利教会から、「被災地の皆さまは、枝に困っていらっしゃる教会があるのではないですか？私たちの地域では、ソテツが自生しているので、切ってお送りすることができますので、数をまとめてお教えてください」という親切なお申し出を受けました。しかし、すでに、どこの教会もお花屋さんに注文した後でした。それで、昨年は「残念ながら……」とご返事せざるをえませんでした。

ところが、今年は、大笠利教会の方から、連絡をいただく前に、東仙台教会から、「ソテツをお願いしたいのですが…」と連絡が入りました。急いで、大笠利教会にお願いし、無事、ソテツの葉が送られてきました。この写真をご覧ください。1人ひとりが、手に手に1本の完全なソテツの葉をもっているではありませんか！「うらやましい！」と思わず声をあげたのは、他の教会所属の信者さんたちでした。

大笠利教会の信徒の皆さま、本当にありがとうございました。



カトリック東仙台教会

大笠利教会から送られた大きなソテツの葉をもつ信徒たち